彦根城博物館だより
100
2013.3.1
Hikone Castle Museum News Hikone Castle Museum News

資料紹介

泰安居士画像（井伊直政画像）　当館蔵

彦根藩主井伊家初代直政（一五六一～一六〇二）の肖像画。現存が確認されている直政の肖像画の中でも、彼の風貌を最もよく伝えていると考えられるものです。

本作は、もともと彦根の宗徳寺（後の天寧寺）に伝来したものです。同寺は、直政の生母、蘭庭宗徳大姉の菩提寺として井伊家二代直孝によって明暦年中（一六五五～八）に建立されました。

直政が手にする中啓の中央に配された井伊家の家紋である橘紋は、定型化する以前の柔らかみのある古様を示しています。

上部の賛文は、臨済宗妙心寺派の傑僧、鉄山宗鈍（一五三二～一六一七）のものと見られてきましたが、運筆に弱さが感じられることから、写しである可能性が指摘できます。写しだとしても、画の描き方は古様であり、制作は比較的早い時期と思われます。本人の直接の菩提寺でなくとも肖像画を調える必要があったということでしょうか。それとも、既に存在していた肖像画が何らかの理由で同寺に納められたのでしょうか。肖像画制作の動機を断定することはなかなか困難です。

（髙木 文恵）

展示案内 3月～6月

テーマ展

3/8（金）～4/9（火） 展示室1 直弼と大名の交流

直弼発見！

井伊直弼は、三十二歳で彦根藩世継ぎとなると江戸で暮らし、他藩の大名と親しく交わりました。一大名という立場に加え、幕政に意見を述べる譜代大名重鎮として、さらに幕府大老としてさまざまな立場の大名たちと関わりを持ちました。

本展では、幕府に出仕しはじめた直弼へ大名としての心得を教示した先輩、幕政上の関係者、茶の湯の交流など、直弼と諸大名との交流の様子を紹介し、あわせて大名社会に生きる直弼の意識も探ります。

◉ギャラリートーク◉
■日時　3月9日（土）14時～
■講師　野田 浩子（当館学芸員）

特別公開

4/12（金）～5/7（火） 展示室1 国宝・彦根屏風

風俗図（彦根屏風）部分

彦根藩主井伊家に伝来したことから「彦根屏風」の名で広く親しまれている屏風は、近世初期風俗画の傑出した名品として高く評価されています。毛筋の一本一本、絞り文様の一つ一つに至るまで表現する圧倒的に緻密な筆致、金地を背景とする極めて洗練された構図、江戸時代初期の華やかな風俗や時代を反映した静寂な空気など、多様な魅力あふれる彦根屏風の世界を堪能ください。

◉ギャラリートーク◉
■日時　4月13日（土）14時～
■講師　髙木 文恵（当館学芸員）

●● 常設展示 ●●

“ほんもの”との出会い
－彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に80点あまりを展示－

展示室2～3、5～6　＊6/7～7/9は展示室3、5～6のみ

催し

◉平成25年度支援スタッフ募集◉

当館では、事業をサポートしていただく支援スタッフを募集しています。さまざまな人と触れあいながら、一緒に博物館を盛り上げてみませんか。

■活動内容
①教育普及事業　小学生対象体験講座の運営スタッフ（体験メニューの準備、指導補助）
②催し物事業　能・狂言講演の運営スタッフ（受付、会場案内、会場・駐車場整理など）
③調査研究事業　古文書解読ボランティア（彦根藩井伊家文書等の古文書解読）
＊①②③を全て兼ねて登録していただくこともできます。
＊③は、当館開催教室「古文書のみかた」を終了された方および同程度の解読力を有する方が登録いただけます。登録希望の方は、事前に学芸史料課古文書解読ボランティア担当へお問い合わせください。

■募集期間　3月22日（金）まで

■申し込み方法
＊当館支援スタッフ係まで電話で応募ください。
＊支援スタッフとして活動される方は、4月以降に開催する研修を受講していただきます。

◉「古文書のみかた」受講生募集◉

古文書解読を基礎から学ぶ教室「古文書のみかた」の受講生を募集します。

■開講日時
5月18日、6月15日、7月6日、8月10日、9月14日、10月12日、11月16日、12月14日の14時～16時（全8回、いずれも土曜日）

■場所　当館講堂

■定員　80名（定員を超えた場合は抽選）

■資料代　500円

■申込方法　往復ハガキ（1人につき1枚）の往信に住所・氏名・電話番号を、復信の宛名面に住所・氏名を明記の上、お申し込みください。

■募集期間　3月31日（日）まで
＊当日消印有効

◉友の会 会員募集◉

彦根城博物館友の会では、平成25年度の新規会員を募集しています。博物館をより身近に感じることのできる友の会に入会し、歴史や文化との出会いを楽しみませんか。

■特典
・会員証で、常設展示や企画展等が観覧できます。（賛助会員の会員証では10名まで）
・友の会主催の講演会や現地研修等に参加できます。
・友の会ニュースや博物館だより等をお送りします。

■年会費
一般会員　2千円
一般会員（高校生）　1千円
ジュニア会員（小中学生）　5百円
賛助会員　1口　1万円（1口以上）

■入会方法
当館受付にある入会申込書をご利用ください。ご希望の方は郵送もいたしますので、お問い合わせください。

■問い合わせ先
彦根城博物館友の会事務局（彦根城博物館内）
友の会専用携帯電話　090－1224－6813
＊毎週水曜日9時から17時まで在館

テーマ展

5/10（金）〜6/4（火）

展示室1

男面の魅力 ―井伊家伝来能面から―

能面には多くの種類がありますが、それらは翁、尉、鬼神、霊、人間（男・女）に分けることができます。

このうち男の面には、貴公子らしい気品を感じさせる「中将」、日に焼けた精悍な武士の「平太」、美少年平敦盛を表した「十六」、零落し盲目の乞食法師となった平景清を表す「景清」など、表情の異なる様々な役柄の面があります。本展では、役柄ごとに異なる性格を持つ、男面の魅力を紹介します。

能面　十六

◉ギャラリートーク◉
■日時　5月11日（土）14時〜
■講師　茨木 恵美（当館学芸員）

能面　平太　洞白満喬作

企画展

6/7（金）〜7/9（火）

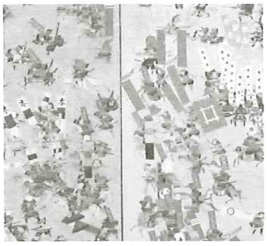
展示室1・2

新収蔵記念 彦根藩筆頭家老・木俣清左衛門家資料

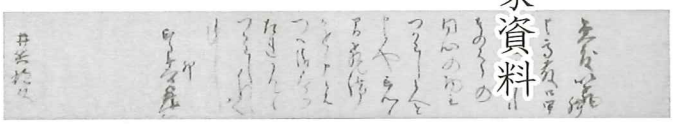
木俣清左衛門家は彦根藩筆頭家老を務めた家です。徳川家康の家臣であった初代守勝は、侍大将となった若き井伊直政の補佐を家康から命じられ、直政の重臣として活躍しました。以来、代々筆頭家老の重責を担い、江戸中期以降は大名に匹敵する1万石を治めました。

このほど、同家に伝来した美術工芸品や古文書が当館所蔵となりました。それを記念し、これらを紹介する展覧会を開催します。家康が直政へ守勝の出陣を命じた自筆書状など、彦根藩草創期の歴史を解き明かす新出史料も初公開します。

◉ギャラリートーク◉
■日時　6月8日（土）14時〜
■講師　野田 浩子（当館学芸員）



関ヶ原合戦図（木俣家伝来資料）部分



徳川家康自筆書状

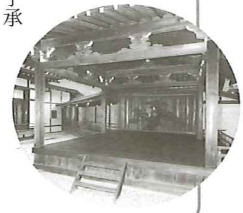
催し

◉水無月狂言の集い◉

■開催日時・場所
6月22日（土）
18時30分開演（18時開場）
当館能舞台

■演目
大蔵流狂言
解説　茂山 正 邦
「鶏智（にわとりぢえ）」　茂山 童 司
「太刀奪（たちうばい）」　茂山 逸 平
「六地蔵（ろくじぞう）」　茂山 千三郎

■チケット
全席指定　5月22日（水）販売開始
A席（正面席）　3千5百円
B席（脇正面席）　3千円
＊開演時刻・演目・出演者等は、都合により、やむなく変更することがございますのでご了承ください。
＊チケットは彦根城博物館受付およびお電話にてお求めいただけます。
（発売初日は、窓口販売9時〜、電話販売10時〜）
＊未就学児の入場はお断りいたします。



◉城郭関連博物館連携講座◉ シンポジウム 城の変遷から見る信長の城・秀吉の城・徳川井伊の城

城郭の宝庫・滋賀には、戦国時代・織豊期・江戸時代を代表する城が残っています。同じ地域の新旧の城を取り上げ、その変遷や相互の歴史的な関係について、各博物館の学芸員が解説・討論します。戦国時代から江戸時代の転換期に著しい発達を遂げた城郭の歴史の核心に迫ります。

■日程・内容・講師
3月23日（土）13時〜16時
第1講「観音寺城と安土城・八幡城」
滋賀県立安土城考古博物館　学芸員　大沼 芳幸
第2講「小谷城と長浜城」
長浜市長浜城歴史博物館　学芸員　太田 浩司
第3講「佐和山城と彦根城」
彦根城博物館　学芸員　渡辺 恒一
パネリスト討論

■場所　当館能舞台見所
■定員　125名（先着順）
＊事前申し込みは不要です。当日、会場にお越しください。受付開始12時
■資料代　300円
■主催
彦根城博物館・滋賀県立安土城考古博物館・長浜市立長浜城博物館

スケジュール

3月
9 土「直弱発見！直弱と大名の交流」ギャラリートーク
23 土 城郭関連博物館連携講座 シンポジウム「城の変遷から見る信長の城・秀吉の城・徳川井伊の城」

4月
13 土「国宝・彦根屏風」ギャラリートーク

5月
11 土「男面の魅力」ギャラリートーク
18 土 古文書のみかた①

6月
8 土「彦根藩筆頭家老・木俣清左衛門家資料」ギャラリートーク
15 土 古文書のみかた②
22 土 水無月狂言の集い

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

3月	4月	5月	6月
テーマ展 雛と雛道具 ～3/5	特別公開 国宝・彦根屏風 4/12～5/7	テーマ展 男面の魅力 ―井伊家伝来能面から― 5/10～6/4	企画展 新収蔵記念 彦根藩筆頭家老・木俣清左衛門家資料 6/7～7/9
3/5～7 展示替により一部休室	4/9～11 展示替により一部休室	5/8・9 展示替により一部休室	6/4～6 展示替により一部休室
テーマ展 直弱発見！直弱と大名の交流 3/8～4/9			

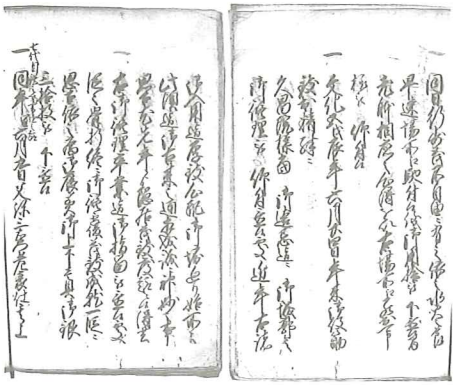
研究余録

金亀玉鶴

井伊家当主の遠忌と彦根城の修理

―井伊直孝一五〇回忌から―

一般に、故人が亡くなった月日（祥月命日）には故人の菩提を弔うため法要を営みます。没年の翌年には一周忌、二年後には三回忌を行い、その後も節目の年には法要を行いますが、特に一三回忌以上で、五〇回忌・一〇〇回忌などの遠い回忌のことを「遠忌」といいます。彦根藩井伊家の歴代当主については、管見の限りでは、寛延二年（一七四九）に行われた井伊直政（井伊家初代）の一五〇回忌から遠忌が行われ、その後も多くの事例が確認できます。この遠忌では、井伊家菩提寺での法要に加え、別の事業が遠忌に結びつけられて行われることがありました。



「侍中由緒帳」文化五年六月二四日条

前回は井伊直政一五〇回忌について紹介しましたが（「井伊直政を偲ぶ人々」『彦根城博物館だより』九二号）、今回は、文化五年（一八〇八）に行われた井伊直孝（二代）一五〇回忌から、井伊家当主の遠忌について考えます。

文化五年六月二二日から二八日までの間、直孝の墓所のある豪徳寺において一五〇回忌の法要が執り行われました（直孝の命日は万治二年〈一六五九〉六月二八日）。これに合わせる形で、彦根藩では彦根城の城郭修理が行われていました。

この城郭修理を担当したのは、彦根藩の普請奉行である後藤基博です（以下、後藤に関する記述は『侍中由緒帳』八による）。後藤は寛政八年（一七九六）に普請奉行を拝命した後、奉行職における功績によりたびたび褒美を受けているほか、加増も受けています。ただ後藤は寛政一二年以降、老いを理由に二度にわたって隠居を願っています。しかし有能であったためか彦根藩から慰留を受け、引き続き普請奉行を勤めています。

文化三年五月、みたび隠居を願った後藤に対し彦根藩は、井伊直孝の遠忌が近くなり彦根城の城郭修理が遠からず完成するので、それまでは体をいたわり普請奉行を勤めるよう、後藤の隠居を差しとめています。城郭修理の開始時期は不明ですが、この年には既に行われているようです。この時彦根藩には、在職年数が長く実績のあった後藤に引き続き普請奉行を勤めさせ、二年後に迫った直孝一五〇回忌までに城郭修理を確実に完了させようとする意図があったと考えられます。

その後も後藤は普請奉行を続けていましたが、直孝一五〇回忌法会が行われている最中である文化五年六月二四日、城郭の修理が完了したことで褒美を拝領しています。この日の史料には、後藤は直孝の遠忌までに城郭の修理を命じられていたが、その費用についても熱心に心を配り、（後藤らの尽力により）「御堀廻り始所々」が「古来」の通りとなったこと、そしてこの修理が完了するまでは後藤の隠居を差しとめていたことなどが記されます。この一四日後である閏六月九日、後藤はようやく隠居を認められています。

ここで注目すべきは、城郭修理の対象が「御堀廻り始所々」である点です。

城郭修理では、堀・土塁・石垣などは幕府へ届け出る必要がありました。彦根城では、幕府へ届け出の上、寛政四年（一七九二）、そして享和三年（一八〇三）から石垣修復が行われていましたが、どちらも文化二年（一八〇五）に完了しています。また、寛政七年の石垣修復は、その年の内に完了しています。（『彦根市文化財調査報告書第三集　特別史跡彦根城跡　石垣総合調査報告書』彦根市教育委員会文化財部文化財課編・発行、二〇一〇年）。そのため、遠忌を目指して行われた城郭修理は、幕府へ届出た箇所とは別箇所の修理であったと考えられます。加えて、期限の二年以上前から行われていることから、大規模なものであったと推測されます。

そしてこの城郭修理は、城郭を「古来之通」とするものでした。「古来」とは、彦根城完成当時（元和八年〈一六二二〉）の状態であると考えられます。彦根城完成から一八〇年近くが経過し、色々な箇所で破損等が出てきていたものを、彦根城完成時の当主である直孝の遠忌に合わせて修理しようとする意図があったと考えられます。そして、このような大規模な修理を行う意志決定の段階では、現当主（二代）である井伊直中の意向が反映されていると推測されます。

遠忌という行事は、単なる法会という以上に、開催する人々の意向が反映された行事であったといえるでしょう。遠忌という行事の全体像を検討することで、彦根藩の人々がいかに遠忌に関わり、そして彦根藩井伊家の歴史についてどのような認識を持っていたのかを今後考えていきたいと思います。

（青木 俊郎）

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061　滋賀県彦根市金亀町１番１号
TEL0749(22)6100　FAX0749(22)6520
http://longlife.city.hikone.shiga.jp/museum/
この印刷物は 8000 部作成し、印刷単価は６円です。

世界遺産
彦根城を世界遺産に
彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。